

(医療入門)

ケア・マインド教育〈A3〉

オーガナイザー

保健看護学部	教授	志波	充
保健看護学部	教授	山口	雅子
保健看護学部	教授	水越	正人
教育研究開発センター	教授	村田	顕也
教養・医学教育大講座 哲学	准教授	竹山	重光

I 一般学習目標

医療人を志すものとして知識・技能の習得のみならず、病める人の視点で考えられる人間形成を目指す。また、行政・司法を含めた社会制度について知ることにより、個々の患者の社会的背景、支援の状況についての理解を深める。本講義は、医学部・保健看護学部の共通講義として行い、立場の異なる医療人を志すものとして相互理解を深める。

II 個別学習目標

1. 医療において病める人の視点で考えることの重要性について述べることができる。
2. チーム医療の状況、重要性について述べるができる。
3. 患者個人として疾患の受け取り方、対応の仕方に多様性があることを説明できる。
4. 疾病の罹患に伴う精神的、経済的、社会的負担を、体験を通して説明できる。
5. 疾患の対応、支援について多くの職種が関わっていることを述べるができる。
6. 患者のみでなく、患者の家族への対応、支援の方法について述べるができる。
7. 疾患について、医学的な支援の状況と限界について述べるができる。
8. 疾患について、行政からの支援の状況について述べるができる。
9. 疾患について、地域社会からの支援について述べるができる。
10. 薬害について理解し、支援について述べるができる。
11. 地域・僻地医療の現場での取り組みについて説明できる。
12. 医療行政を含め地方行政の仕組みについて述べるができる。

III 教育内容

講義項目と担当者

1. 本年度の講師については、患者および患者の会、福祉行政、司法、地域医療の実務者をお願いする予定である。詳しい内容については別途明らかにする。
2. Early Exposure：和歌山県下の医療施設で現場の医療を体験する。
予定施設については別途明らかにする。

IV 学習および教育方法

講義および患者さんまたは家族の会による体験談。

WGでは学生をグループに分け、それぞれのテーマを自己学習し、発表、討論を行う。最終日には発表会を行う（テーマは別途明らかにする）。

V 評価の方法

授業への出席および授業態度(20%)、WGのレポート(70%)、最終発表(10%)の内容により評価をする。
評価の基準は大学の基準とする。